校長室だより～燦燦～ №５９９

修学旅行

2022.8.5

修学旅行とは、中学生にとって特別なものである。中学校生活最大の思い出になりうる存在である。コロナ禍も３年目となった。この間に、改めて修学旅行について考えることができた。今まで当たり前に実施してきたものを振り返り、その意義や価値を考えるようになった。

昨年度は、検討に検討を重ねて、従来行ってきた形での修学旅行を断念し、那須ハイランドパークに日帰りで行ってきた。こちらとしては、それを修学旅行と呼んでいた。だが、生徒と保護者の中には、それは修学旅行ではないと認識していた方もいらしたことだろう。修学旅行がなくなった。修学旅行には行っていない。そんな結論である。

気づかされたことがある。修学旅行には３つの要素が必要だということである。「泊まる」「県外に出る」「アトラクションがある」の３つである。他に加えるとしたら「フィールドワーク」だろうか。

泊まることは絶対条件である。修学旅行に限らず、運動部の大会でも家族旅行でも、宿泊するかしないかは大きい。福島県から出ることも重要である。気分が違う。できれば南に行きたい。東北エリアから出るのである。アトラクションも必要である。東京ディズニーランド、ディズニーシー、富士急ハイランド、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンなどである。そして、フィールドワークである。友達と自由に歩きたいのである。ドキドキしながら電車に乗ったり、ご飯を食べる場所で迷ったりしながらワイワイと行動したい。

修学旅行にもトレンドというか、流行のようなものがある。体験型プログラムがその例である。職場体験のようなものもある。こちらのねらいや要望は伝えるが、専門のプロである旅行会社がプログラムを組んでくれる。

コロナ禍を契機に、従来当たり前のようにやってきたことの見直しが進んでいる。デジタル化も進んでいる。働き方改革も進めなければならない。その結果、修学旅行がなくなることはあるだろうか。学校行事から消えるだろうか。入学式、卒業式、そして修学旅行は残っていくだろう。それだけの意義を見出すことができる。学校行事は、学校生活に潤いと変化をもたらす。刺激もある。見直しや精選は必要だが、大事なものは残していきたい。

昔のことだが、３年生の担任として修学旅行に行ったことがある。人数が多かったせいもあるが、今思うと、あまりにも意識が高すぎたように思う。生徒の命を預かっていること、無事に何事もなく帰ってくること、問題が起きないようにすること、あらゆる方面にアンテナを立てていた。それなりの覚悟がないと、とても引率などできない状況だった。福島駅西口に集合のときから意識は最高レベルだった。生徒もエネルギーがあり、パワフルだった。気が張り詰めた３日間が、今となっては懐かしい。